



全国公立学校教頭会通信 第9号

きずな

発行 令和4年12月16日

全国公立学校教頭会広報部

電話： 03-3436-4868

Mail： zenkokyo@kyotokai.jp

HP： <http://www.kyotokai.jp>

11月には、各地区でブロック研究大会が開催されました。全公教近畿ブロック長の佐藤弘宜先生に取材のご協力をいただき、教頭会通信「きずな」9号にまとめました。

第60回近畿公立学校教頭会研究大会 大阪大会（取材協力者：全公教近畿ブロック長 佐藤弘宜先生）

【日時】 令和4年11月25日（金） 10:00～16:00

【会場】 大阪府立国際会議場（グランキューブ大阪）

【内容】

- (1) 開会行事
- (2) 記念講演 演題：「人と関わるロボットと未来社会」 講師：大阪大学教授（名誉教授）石黒 浩 氏
- (3) 研究協議会（分科会）



【研究大会の振り返り】（近畿公立学校教頭会研究大会大阪大会 実行委員会より）

令和元年度に実行委員会を発足させ準備を進めてまいりましたが、当該年度末に新型コロナウイルス感染症に伴う全国一斉休校があり、未だかつて経験したことのない事態になりました。以後の令和2年度奈良大会が「紙面発表」、令和3年度兵庫大会が「紙面発表とオンライン配信」形式への変更を余儀なくされました。そのため、本大会を参集型で実施する際は、安心かつ安全な大会となるよう、令和2年11月に大規模な会場、大阪府立国際会議場（グランキューブ大阪）といたしました。「2年後だから、状況も好転しているだろう」という希望をもって、会場を決めたことが今でも思い出されます。現在も、世間では「お互いに距離を確保しましょう」と呼びかけられ、交流がなかなか難しい状態が続いています。このような状況下だからこそ、近畿2府4県から大阪に集まった副校長・教頭が、「大阪に来てよかった！」「近畿各地区でがんばっている皆に出会えて元気が出た！」と思っただけの研究大会にすべく、特に分科会では、感染症対策を万全にして「交流する機会」が持てるよう工夫したところです。

大会当日は、約1,300人の副校長・教頭が参加しました。メインホールに各地から集まった参加者を見ていると、久しぶりの参集型での大会を楽しんでいるようでした。

記念講演会では、大阪・関西万博のテーマ事業プロデューサーである大阪大学教授（名誉教授）石黒 浩様にお越しいただき、この先の未来社会を見通したお話を伺いました。

【記念講演の内容】

- ・ロボット研究を進める理由➡日本の人口が確実に減っていく中で、今後は外国からの受け入れか、ロボットで（人口減少に伴うサービスの低下を）補うかが必要である。
- ・ロボット研究の哲学➡「命」「心」「知能」「意識」これらは言葉で説明できないものである。大学は、「人間とは何か」という問いを研究するためにある。人間は技術によって進化する。ロボットは進化を映す鏡、すなわち人を映す鏡である。
- ・ロボットを人型にする理由➡人間は人間（ヒト）を認識する脳を持ち、人間にとって理想的な（ロボット等との）インタフェースは人間。故に、人間を取り巻くロボットや情報メディアは、少なくとも部分的には人間らしくなるべきである。
- ・石黒教授（名誉教授）ロボット研究の紹介
◎自立対話型アンドロイド「エリカ」◎社会療育ロボット「イブキ」◎家庭内でのコミュニケーションロボット「コミュニュー」◎高齢者用対話ロボット「テレノイド」
- ・2050年までに、アバター共生社会を目指して取り組む➡「アバター共生社会」とは、人が身体・脳・空間・時間の制約から解放された社会を指す。
- ・アバターを活用した事例➡スーパーマーケットでの利用従業員が接客したいが、できない状態にある場合を想定（自宅での勤務も可能）大学のキャンパスから、アバターを利用して接客業を行う。
- ・アミューズメントパークでの利用（感染症対策をする必要がある場合を想定）➡スタッフが別室でモニターを見ながら、アミューズメントパーク内にある複数のロボットを操作して、館内を案内する。（少ない人員できめ細かな対応が可能）
- ・児童精神科での利用➡自閉症の子の中には、対面だと話せないが、アバターが相手だと話すことができる場合があ

る。

- ・特別支援教育施設での利用➡アンドロイドを用いた就職面接 アンドロイドを用いた社会機能訓練（アバターから人間へ人間相手よりもロボット相手の方が緊張せずに取り組みやすく、成績もよくなる傾向にあることから）
- ・不登校児童の予防➡通常学級にロボットを置いて、不登校の児童が別室からそのロボットを操作し、クラスメートとコミュニケーションをとる。
- ・就学時健診や医療での利用➡離島等にアバターを置いて、常駐する医師に他の医師が専門科以外のことをアドバイスしたり、直接患者に話したりする。
- ・学童保育室での利用➡ロボットを置いて、地域の方がそのロボットを通して子どもたちへ会話をする。
- ・日本が先導する仮想化実社会➡ロボットやCG、インターネットを組み合わせる。ただし、この世界を実現するには、倫理的な問題やセキュリティ的な問題がある。しかし、倫理的な問題やセキュリティ問題の議論を先にしてしまうと、前に進まなくなる。技術の後にこの社会を守るためにどうするか（何が必要か）を議論することが大切である。
- ・社会が変わっても学校は必要➡アバターの進化によって例えば比較的簡単なことはAI、難しいことは教員が遠隔で指導するなど、教育が変わっていくだろうが、学校は人間関係をつくる、議論するなどの場として重要である。学校は、今後海外と交流する場になってほしいと考えている。

【研究協議会】

5つの分科会で、6本の提言がありました。提言内容は、現在の課題に即したものであり、発表後下記の討議の柱にそって、あらかじめ決められたグループで協議しました。どのグループも時間の許す限り、テーマにそって協議している姿が印象的でした。各地区で活躍する副校長・教頭が実践交流や情報交換をする中で、お互いの共通点やちがいを語り合い、今後の参考になるものを持ち帰ることができたと考えております。

<分科会 グループ協議の柱>

分科会	研究課題	討議の柱
第1分科会	教育課程に関する課題 ・和歌山県：読解力の育成を目指した授業作り ・大阪府：職員が主体的に考える環境づくり～コロナ禍における教育課程の編成～	・児童生徒の読解力を高めるための取り組みを、いかにして教育課程に位置づけるか ・小中連携したカリキュラム・マネジメントを実践するため、教職員の意識向上をどのように高めていくのか
第2分科会	生徒指導に関する課題 ・京都府：学校組織力の向上を目指して～生徒指導の三機能を生かした学校づくり～	・「積極的な生徒指導」をいかに進めていくか ・子どもの生きる力を育むため、地域との連携をどのように進めていくのか
第3分科会	組織運営に関する課題 ・滋賀県：自主性を引き出す若手教員の組織的なOJT研修について～竜王チャレンジタイムを核とした若手教員の育成～	・児童生徒の学力を向上させるために、学校組織として取り組んでいること ・学校経営への教職員の参画意識・意欲を高めるため、副校長、教頭の役割はいかにあるべきか
第4分科会	人間尊重の教育に関する課題 ・奈良県：人権教育を基盤とした持続可能な学校運営に向けて	・他者の思いに想像力をはたらかせることのできる子どもを育てる教育活動とは ・小中連携により、人間を尊重する教育を教頭としてどのように進めていくのか
第5分科会	教頭の職務に関する課題 ・兵庫県：神戸市における業務改善の現状と課題（コミュニケーションツールの活用と大規模校における教頭複数配置）	・各校それぞれの地域の特色を活かし、どのような業務改善を展開しているのか ・教職員の意欲を引き出し、働きやすい職場づくりにおける副校長・教頭の役割とは

本大会では実行委員会を中心に、副校長・教頭という同じ立場の人が集まり、府県や地区をこえて交流することで、一人ひとりが元気になれるということを大切に、参集型での開催を目指して準備を進めてきました。われわれ副校長・教頭が元気になることで、自分たちの周りにいる教職員や児童生徒、また保護者、地域の方にもその活力が広がっていくと考えております。大会を終えて会場から出る参加者の充実感に満ちた姿を見て、実行委員会一同、開催してよかったとしみじみ感じることができました。

なお、大会後のアンケート結果は、全体会（記念講演会）の満足度は86.7%（非常に満足44.2% 満足42.5%）、分科会（研究協議会）の満足度は88.3%（非常に満足43.6% 満足44.7%）、大会全体を通しての満足度は93.8%（非常に満足34.9% 満足58.6%）でありました。アンケート結果から、参加した副校長・教頭にとっても、大変有意義な大会であったのではないかと捉えております。